



散歩道

令和3(2021)年8月27日発行

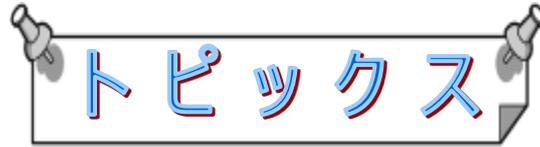
加西市人権啓発だより
加西市ふるさと創造部人権推進課
加西市北条町横尾 1000 番地
☎ 0790-42-8727

第16号

コロナ禍で開催された東京オリンピック 2020 は、17 日間の熱戦に幕が下ろされました。東京が掲げた大会理念の1つに「多様性と協調」があります。「人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障がいの有無など、あらゆる面での違いを肯定し、自然に受け入れ、互いに認め合うことで社会は進歩する」というものです。

日本人選手のメダルラッシュの中、課題として浮かび上がったのは、選手に対する SNS による中傷が相次いだケースで、デジタル社会の負の側面が浮かび上がりました。反面、東京オリンピックから採用された新競技の会場では、難度の高い技に挑み続け、惜しくもメダルに届かなかった選手に駆け寄りたたえ合う姿もありました。順位を競うだけでなく、さまざまな違いを乗り越えてお互いを尊重し、自分のベストを追求するという姿勢に、オリンピックの「たたえ合う」ことの大切さを感じさせられました。

加西市では、市民への人権啓発として、去る8月22日に「人権文化をすすめる市民のつどい」を開催し、市内の子どもたちが作った人権ポスター優秀作品の表彰と人権講演会を催しました。講演では、露の団姫さんより「一隅を照らす～自分の持ち場で一生懸命～」と題したお話をいただきました。



◆夏休み太鼓づくり教室 <太鼓づくり&人権講話> 7月25日実施 於：善防公民館

十八代目太鼓屋六右衛門たいこやろくえもん（杉本すぎもと 大士たいし）講師の指導の下、41組の小学生と保護者が、牛の命、木の命、職人の命を交えて命の大切さについて考えながら太鼓づくりに取り組みました。親子で真剣に取り組み、協働し完成させたという実感も感じられたのではないのでしょうか。



また、自分自身のいじめにあった経験も交え、差別されることの理不尽さや親にも話せないことの苦しさについても話されました。

参加した小学生には、周囲への感謝を忘れないように、思った時には、すぐ気持ちを言葉に表現をすることが大切だと教えて頂きました。

<アンケートから>

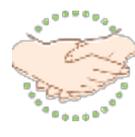
「丁寧に指導していただきありがとうございました。子から親への感謝の気持ち、気づかせていただきありがとうございました。」

「命の大切さ、いじめや偏見の話も聞けてとても良かったです。」

「職業差別や命のお話を身内以外の方からお話ししていただけることは、子供にとって良い経験になったと思う。」



主な人権啓発事業



★地区人権学習会（3年間で2回） 9月・10月 開催

地区ごとの人権学習会です。

- ・地区人権学習A 講話中心の講演会です。（北条・賀茂）

講師：三木市人権・同和教育協議会 人権教育・啓発専門員 ひがしだ としひろ 東田 寿啓 氏

- ・地区人権学習B 音楽(ギターと歌)を交えた講演会です。（九会・富合・多加野・西在田）

講師：兵庫県人権啓発協会研修講師 たかた みつひろ 高田 光裕 氏

★「まちかどフォーラム」（3年に1回） 7月～10月（富田・下里・在田）

開催予定の町ごとに人権について学習します。今年の推奨テーマは、「感染症と人権」、推奨映画は「家族と考えるハンセン病」です。町ごとにテーマと映画を選定し、順次実施しています。

本年度の推奨作品「家族と考えるハンセン病」では、登場人物にハンセン病に対する認知度の差を分かりやすく当てはめ、ハンセン病にまつわる人権侵害について、正しい知識を得ることの重要性を明らかにしています。実際の療養所の様子や入所者の思いを聞き取る場面もあり、ハンセン病について、よりリアルな現状を知ることができます。

身近な人権問題

人権にかかわる身近な話題を提供します



近代五輪史上初の延期を経験した「2020年東京五輪・パラリンピック」の東京五輪は、2021年8月8日（日）閉会しました。東京五輪を巡っては、主催者側で要職を務める人物の発言や過去の行動が差別問題となり、辞任に追い込まれることが重なり開催に暗雲が漂いました。

しかし、2021年7月23日に開会した東京五輪は、開会当初から活躍する母国の選手に世界中が喚起し、酔いしれる17日間となりました。

「2020年東京五輪」を人権の視点から見ると、開催前の問題も含めて多くの話題がありました。難民選手団は前回のリオ五輪に比べて約3倍の29名の参加があり、シリア出身の兄弟は、開会式で再開できたというニュースがありました。また、陸上女子のベラルーシ代表クリスツィナ・ツィマノウスカヤ選手は、コーチに対してSNS上で不満を書き込んだとして帰国を強要され、ポーランドに亡命するニュースは、大会中に大きな話題となりました。スポーツを取り巻く環境は、決して平等ではないことが明らかとなる大会でもありました。また、SNSによる選手への誹謗中傷も大きな話題となり、今後早急の対応が求められました。

コロナ禍における1年の延期は、決して平たんな日々ではなかったはずです。苦勞と困難の日々であったことは容易に想像できます。スポーツの果たす役割は偉大です。子供たちに夢を与え人々に生きる力を与えます。世界中から人権侵害がなくなり、平等な条件のもとで競い合うことのできる時代が来ることを願わずにはいられません。

※人権啓発の各事業については、加西市ホームページに掲載しています。

（トップページの「市政」→「まちづくり」の「人権」→「計画・施策」の「人権啓発活動」へ）

※表題「散歩道」という名称は、平成13（2001）年度まで人権啓発冊子で使用されていました。